

今、この人に **いんたびゅう** Interview

大津市の商店街でゲストハウスと薬膳料理の店を開く

王 培英(おうばいえい) さん

商店街の一員として、自分から日本の地域社会に深く関わるようにしています。
これからも“自分のできること”からやっていこうと思います。



■30年前に来日されたということですが、きっかけは何だったのですか？

中国はその当時改革開放時代で、経済発展へ政策転換の真只中でした。私は勤めていた会社から2年間の留学で日本に来ました。日本語1級の資格を取得し、中国に戻って日本語の翻訳や通訳の仕事をするつもりでしたが、「もう少し日本で勉強したい」という思いが沸いてきて、大学から大学院へ進学しました。

■研究者の道に向けて、日本での在住が長くなったわけですが、日本で受けた印象を教えてください。

一番驚いたのは交通や通信の便利さで、通勤に電車を使い、各家に電話機があったことでした。ただ、そんなモダンな生活スタイルの反面、家が地味なものにも驚きました。特に京都は町家暮らしというアンバランスな雰囲気に戸惑いました。当時は日本の「侘び寂び」は未開発のことだと思っていましたが、社会学、人文学の視点で見ると「美しさ」であることが分かりました。また、日本人の細部にわたるものづくりのアイデアも素晴らしいと思いました。何よりも居心地が良かったのは学生時代に日本の社会との出会いが多かったことです。当時は留学生支援者の方に、住む場所やバイト先を紹介してもらい、毎週お茶会も開かれ、地域住民との交流が頻繁にありました。それが今の私の活動のきっかけになっているように思います。

■その後、研究者の道からゲストハウス運営に方向転換されますが、どんないきさつだったのでしょうか？

研究者の道に進むつもりでしたが、子どもが生まれ、子育てをしながら無理せずに自然体で私のできることをしようと思うようになり、子どもが3歳になった時に研究者を辞めました。仕事としては週一で大学の講師をして、子どもの時間に合わせて、自由に時間が調整できる仕事を考えていました。それがゲストハウスでした。浜大津のゲストハウス1号店は、海外受験生の宿泊施設として、またその後の生活のアドバイスなどでもできる場所として2016年にオープンしました。その頃から

インバウンド観光でお客さんも多くなり、2019年に大津の商店街で2号店をオープンしました。

■大津の商店街のゲストハウスに喫茶店を併設されたのは、なぜですか？

当初の計画では1階はゲストハウスのエントランスだったのですが、ここは元々ケーキ屋さんで、地域のお年寄りの皆さんの集いの場所になっていたということを知り、計画を変更してコミュニティスペースとして喫茶店にしました。その際、私が無理なくできることをやろうと思い、母が中国で作っていた家庭料理を未病息災のための薬膳料理としてメニューに取り入れることにしました。

留学生の時は日本の人たちの方から積極的に関わってくれていましたが、今は私から商店街の一員として日本の地域社会に深く関わるようにしています。

■大学では留学生を対象に、日本で生活するために必要な法律や衣食住の基本を教えておられますが、特に大事なことで伝えられていることは何ですか？

「皆さんが住む環境のことを知ってください」と言っています。例えば、日本は地震大国です。いざというときの避難場所を把握しておくため、地域の避難訓練に積極的に参加して、避難マップを持っておくことが大事です。単に日本語がわかるだけでなく、日本の風土がわかることで、就職の際も、社会の一員となつてからもスムーズに進んでいけるんです。また、私が留学生だった頃と比べると、今の留学生は日本の社会との接点が少ないと感じます。身近なところから、地域社会との関わりを大切にしてほしいですね。

■研究者としての経験を経て、今、地域に根差した活動を進められていますが、どんな想いで取り組まれていますか。また、今後の抱負や目標をお願いします。

環境社会学を研究していたときに学んだ「自分のできることをやる」という姿勢は地域の活動の中でも変わらず大切にしています。自分の持っているキャリア

▲「喫茶長江の野菜は、無農薬で夫と一緒に栽培しています。大好きな花も育てていて、地域の人も手伝ってくれています」と王さん。赤ちゃんの離乳食にもなる雑穀米のお粥も人気のこと。

●プロフィール●

中国の大学を卒業後、石油採掘関係の研究所に勤める。仕事で必要となる日本語を学ぶため1992年来日。京都精華大学で環境社会学を学んだ後、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科で博士号を取得。その後、琵琶湖の周囲で暮らす人々と中国の太湖との比較研究のため2004年に滋賀に。書画家の馬樹茂さんと結婚後、子育てをきっかけに働き方を一新。現在は京都経済短期大学で非常勤講師を務める一方で、地域の人と交流しながら、ゲストハウスと薬膳料理の店を営む。



喫茶長江

住所:大津市長等2-2-23
電話:050-1047-9514
営業時間:9:00~15:30
定休日:土日祝日



◀店の前にはお店に来る地域のお客さんのために椅子が置かれている。店内は書画家で夫の馬樹茂さんのギャラリーにもなっている。

を活かしながら、自分が置かれている環境と時間の中で、自分ができることからするというのが、もっとも人間らしい生き方だと気付いたんです。

そして、今は自分や家族の健康のことも考え、漢方医学について学んでいます。将来的には、その知識を活かして健康講座を開き、お年寄りの多いこの地域の人々に発信していきたいですね。これからも“自分のできること”からやっていこうと思います。